

事業の背景・目的

ホロテンナンショウの生息域外保全と種子繁殖をすすめるためには、生育特性の解明、栽培法の確立、栽培場の整備、栽培技術・知識の継承が必要で、自生地調査と保有する個体の継続栽培を行わなければならない。ハザクラキブシは生息域外保全を行う上で危険分散を図る必要があり、保有する個体を栽培・増殖し、栽培技術・知識の継承も行わなければならない。また、普及啓発を図るため展示場所の整備を行う。

事業の内容

事業① ホロテンナンショウ保全事業

- ・自生地調査を行い、個体数や環境の変化、新たな自生地の探索等を行った。保有する株の栽培環境の改善を図った。



事業② ハザクラキブシ保全事業

- ・株の維持を続けながら栽培特性情報の蓄積を図った。管理展示場に展示し来園者に希少性と保全の大切さをアピールした。



事業③ 普及啓発事業

- ・ポスター等の掲示場所を設置し、本事業の紹介、普及啓発するポスター掲示した。



得られた成果

ホロテンナンショウ保全事業

- ・自生地調査では新たに24個体を確認し位置情報を記録した。昨年度確認した個体（10個体）に枯死、盗掘などは見られなかったが、1個体のみ踏みつけ被害を確認した。周囲の環境等を記録した。
- ・保有するホロテンナンショウは塊茎の大きさは2月9日現在、径12mmに生長していた。（平成30年度は径10mm）

ハザクラキブシ保全事業

- ・温室内に植栽している個体は、ハダニの被害に遭い葉の多くを失ったが回復させ、高さ30cmの幹回りは2月9日現在、90mmになった。（平成30年度は62mm）次年度は挿し木にて増殖予定。

普及啓発事業

- ・多様性保全の普及啓発、本事業を紹介するポスターを掲示し多くの来園者に見てもらうことができた。

